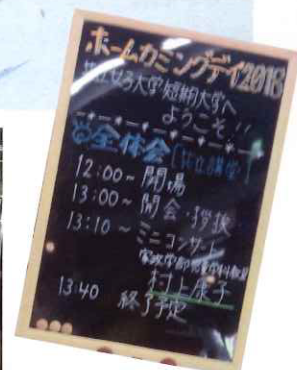


# 文芸OGネットワーク通信

〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋 2-2-1 共立女子大学文芸メディア研究室内 文芸OGネットワーク  
Tel & Fax 03-3237-2681 URL www.kyoritsu-wu.ac.jp/bungei  
代表 多田 久恵 発行：2018.9.15

vol. 29

## 「ホームカミングデイ 2018」開催



2018年7月1日(日)、昨年に引き続き、第2回目のホームカミングデイが共立女子学園神田一ツ橋キャンパスで開かれた。卒業生と共立女子学園のつながりを強め、絆を深くしていこうとの思いで、共立女子大学、共立女子短期大学、同窓生の集まりである櫻友会の共同主催で企画されたものである。

12時半から本館のロビーで受付が始まり、学園を紹介する冊子などの資料が配られていた。ロビー入口より奥まったスペースには櫻友会コーナーが設けられ、来観者へのコーヒーサービスが行われ、壁寄りには櫻友会の活動のあらましを伝える写真がパネル展示されていた。さらに、ロビーの一部では受付が始まる前の11時から、ウェルカムコンサートが開かれ、在学生のサークルであるマンドリンクラブなどの演奏があった。

全体会は午後1時から、共立講堂で開かれ、まず、川久保清学長が、ホームカミングデイ開催の意義などのほか、新しく建った2号館の施設の説明をされ、大いに活用してほしいとのご挨拶があった。次に、櫻友会会長の斎藤昌子氏のご挨拶され、その中で、ホームカミングデイの参加者が昨年よりも多く、500名を超えたとの報告もあった。

最後に、家政学部児童学科の准教授・村上康子氏によるピアノのミニコンサートがあり、モーツァルト、ドビュッシー、ショパンなどの曲が演奏された。

図書館や博物館のある2号館は12時から開放され、自由に見学できるようになっていた。午後2時からは各学部の分科会が本館、2号館、3号館などで開かれ、文芸学部の分科会は2号館で行われた。

今年の文芸学部の分科会では、在学生在が、自分の所属するコースについて紹介するという新しい試みがなされていた。英語のレッスン、共立女子大学校歌の指導、恩師を囲んでのミーティングなども行われていた。

ホームカミングデイの企画とは別に、本館ロビーでは「本館ロビー展示」として、アフリカの「ベナン共和国」を紹介する写真のパネル展示が行われていた。ベナンの風習、髪形・服装などのファッション、料理、人々の生活(出産、結婚、恋愛など)、日常の食事、特産品などを紹介する色鮮やかなカラー写真が、いくつものパネルにびっしりと貼られて、ベナンの様子が盛りだくさんに展示されていた。

ほかに、セネガル、マリ、モーリタニア、ギニア、エジプトなど、西アフリカ諸国の紹介もあり、来観者を迎える本館ロビーに賑わいを添えていた。

### 2018年度の総会は10月20日に行われます

例年5月から6月に行われている総会・文芸サロン講座を、今年は共立祭開催期間中の10月20日に行うことはすでにお知らせしております。できるだけ多くの会員の方にご参加いただけるよう、今年度は共立祭という大きなイベントに合わせて開催することになりました。そうすることで、特に東京を離れてお住まいの会員の方々にも年に1回ならご参加になりやすいのではないかと思います。詳しくは第4面の掲示板をご覧ください。



女性の自立と社会的地位向上をめざす建学精神のもと、一昨年、創立130周年を迎えた共立女子学園。学び舎を築いたあと、仕事や家庭、地域など社会の様々なシーンで共立 Spirit を放っている DG を紹介していきます。

## File5 伊藤和子 Kazuko Ito

今回のゲストは、「油彩・テンペラ混合技法」の画家として活躍中の伊藤和子さん（S52卒）です。ご主人の留学を機にアメリカの美術学校に入学し、創作活動をスタート。帰国後、家事、育児をしながら着実に絵の道を歩み続けてこられました。現在では3年先まで展覧のスケジュールがびっしりという人気画家さんです。

— 幼い頃から絵に興味をお持ちだったのですか。

父が油絵や版画が好きだったので、身近に絵に関する本や道具がたくさんありました。そうした影響もあったかもしれませんが、小さい頃から絵を描くことは好きでした。高校時代も美術部でしたが、当時は美大に行くという感覚は薄く、日本文学にも興味があったので共立の文芸学部、日本文学コースに進学しました。

— 当初は、造形芸術コースではなかったのですか？

そうなんです。2年次から造形芸術コースに変更しました。1年生の時に週に一度、柴田賢治郎先生の「デッサン」を受講していき、それすごく楽しくて。その時にあらためて自分は描くことが好きなのだと思い、舵を切りました。ターニングポイントでしたね。

— 大学時代で印象に残っていることはありますか。

先生方が独特の素敵なお雰囲気をお持ちで、「西洋美術史」を担当されていた富永惣一先生や「西洋美術・工芸史」の友部直先生など、服装や身のこなしも洗練されていて、聞かせていただくお話も興味深く、こうした先生方と接し、教えていただけることが夢のようで贅沢な時間でした。

— 卒業後は、どのような道に進まれたのですか。

共立の短大家政科デザイン研究室で、結婚するまでの7年間、助手をさせていただきました。

— その後、ご結婚されて…。

結婚と同時に主人が博士号取得のためアメリカのペンシルバニア大学へ留学することになり、周辺のことを調べてみますと、ペンシルバニア美術学校というアメリカで一番古い美術学校があったのです。「よし、ここで絵の勉強をしてみよう」と英語を猛勉強し、これまで描いた作品のスライドを学校に送ったところ、受け入れられまして、その年の9月入学、4年間のカリキュラムを終了、卒業しました。印象深いのは、学校の一階がギャラリーになっていて、教授から認められた作品は展示され、購入されるとその代金は学費に当てるといって、非常に効率的なシステムです。「売るところまでが創作」というアメリカ流の教育に最初は戸惑いましたが、やはり見ず知らずの方に自分の絵を買っていただけることは評価されたこととして励みになりました。

— 結婚生活と創作活動の両立は大変だったのでは。

アメリカにいた時よりも帰国してからがカルチャーショックでした（笑）。美術学校卒業後、私は帰国し、主人はもうしばらくアメリカの大学に残ることになり、日本で子供と2人の生活が始まりましたが、描く時間が思うように取れず、アメリカで濃密

な創作の時間を過ごしてきただけに、何となくしぼんでしまった感がありました。半年後に主人も帰国し、2人目の子どもが産まれてから3年くらいは子育てに無我夢中で、あまり記憶がないのです。

その頃、久しぶりに研究室を訪ねて柴田先生にお会いし、その際先生から「ある卒業生で、子育てが終わったのでこれからまた絵を描こうと思っているという人がいたが、そんな簡単なものじゃない、絵は嫉妬深いんだ。専念して顔を向けていないと、描かせてくれない」というお話を伺ったのです。私も薄々わかっていましたので、それから母に週1度来てもらい、子供を見ている間に「黄金背景テンペラ画」という技法を勉強し始めました。その後、40代に入ってから現在描いている油彩とテンペラを併せた「混合技法」を学び始めました。それらは共立で学んだ古典絵画への興味が元になり、その技法を勉強したいと思ったのです。

— 新たに習いに行かれたのですか。

専門の教室に14年間通いました。習得するのが難しく、時間がかかってしまいました（笑）。

— プロの画家として活動されたのは、「混合技法」をマスターされた頃からでしょうか。

周囲の協力を得ながら少しずつ歩を進めていったという感じでしょうか。あるときから急にプロの画家になったというより、個展を重ねていくなかで見に来てくれた方の中から、「うちの画廊でやりませんか」といったオファーがあるようになってきて意識が変わりました。

— 主婦業との兼ね合いで心がけていたことはありますか。

バランスでしょうか、正解はわかりませんが。他の職業と同じようにどの立場でも仕事上は関係ありませんが、自分の中で、その道に突進しすぎても、主婦だからと遠慮しすぎても上手いかないな…と。なかなか出来ていませんが、バランスが大切だと努力中です（笑）。

— 最後に今後の展望を聞かせてください。

長く制作してきましたが、常に基礎に戻り、先に進むという姿勢を大切にしたいと思います。また、数年前から古典絵画技法の工房で教え始めました。自分が身につけた技法を後進の方々へ伝える年齢かとも思います。これは自分こそ勉強になることが多いので、取り組み甲斐があります。

— 貴重なお話をありがとうございました。

聞き手 高橋京子 (H元卒)

Kyonritu  
Spirit!

## 広場

### ◇ 著書紹介



#### 『湯島界限 春夏秋冬 人と人』について

第1回目の「共立 spirit!」（「通信」第25号）で紹介されていたOGネットワーク初世代代表の百瀬好子さん（S35卒）は、病にかかられた妹さんの介護に専念されるため、この8年ほど資料整理を休まれている。昨年春には住み慣れた湯島を離れて柏市に引っ越され、その折に、湯島で過ごされた日々を綴った『湯島界限 春夏秋冬 人と人』を出版された。

充実した仕事に明け暮れていたお二人は、それまでご近所の方がたとは軽い挨拶を交わす仲でしかなかったという。しかし、著者の言葉を借りるなら「高齢者の妹が杖を頼りに、後期高齢者の私がそれをサポートしながらのリハビリ散歩」を毎朝始めてから、湯島界限の人々との心の交遊が始まったのである。闘病記でもあるけれど、周囲の人々との暖かい触れ合いがユーモアあふれる筆致で描かれ、随所に挟まれる俳句がアクセントをつけ、さらには梅、櫻から始まる季節の花々を背景にして、さながら映画のワンシーンがくりひろげられているような印象を与える。

日本語教師として「国際交流基金」からインドネシアに3度派遣された妹の侑子さんは、全身にわたる痛みを抱えながらインドネシアの民話研究書を3冊出版されている。この『湯島界限』と『インドネシア民話の旅』は資料室に残部がある。ご連絡くだされば送付いたします。

多田久恵（S45院卒）

文芸学部を昭和35年に卒業された岐阜県在住の渡邊千恵さんが、昨年、歌集「神帰杉」を出版されました。同期の松尾慶子さんに思い出のエピソードとともに歌集を紹介していただきました。

#### 渡邊千恵さんの第一歌集「神帰杉」上梓を祝して

鎌倉出身のあなたが、ご縁で郡上の方の元に舞い降りた遠い昔の日。当時夫の転勤で名古屋に住んでいた私は出席させていただきました。お香の薫りの中での厳粛な挙式。後日送られてきた集合写真を見てびっくり！何と当日連れて行った私の幼い娘があらうことか穏やかな花婿殿の膝の上に、ちょこんと座り笑って写っているではありませんか！！

その後の千恵さんは保育園の園長、「古今伝授の里」からの文化の発信、佐佐木幸綱氏主宰短歌結社「心の花」に入会し選者賞受賞後、齢を重ね水々しい感性で心を詠み続け昨年秋に第一歌集「神帰杉」を上梓。457首の歌には郡上の自然と文化への愛、亡き人への追慕の情が通奏低音で奏でられています。

私は歌にモーツァルトをそえてみます。

<朝どりの薊いちりん壺に活け暑きひと日をきりと過す>

ディヴェルティメント K.136  
晴朗で心が軽やかに弾む旋律。

<朝食の卵焼きにも塩麴ひと匙加え共に生き抜く>

ピアノ協奏曲 K.467 第2楽章 アンダンテ  
優しく美しい穏やかな調べ。

<きみは今黄泉平坂どの辺り 椿落つるをくらくら眺む>

弦楽五重奏曲 ト短調 K.516  
慰めなき自問自答の悲痛な調べ。

<盆栽のきりしまつつじに帰り花、思い出をみな透明にして>

クラリネット協奏曲 K.622 第2楽章  
心に深く染み入る天上の調べ。

松尾 慶子（S35卒）

「神帰杉」歌集問い合わせ：ながらみ書房 Tel.03-3234-2926

### ◇ 絵画展のお知らせ

◎ 2018年11月21日(水)～26日(月)

福岡三越

「伊藤和子・水野惠理二人展」

◎ 2019年12月4日(水)～10日(火)

小田急新宿店本館アートサロン

「伊藤和子絵画展」

## 連載 私の学生時代 — 文芸学部で学んだ日々⑮ —

今回は、英文コースを卒業された第18期生の角谷和子さんに書いていただきました。



## 「大学で学んで役に立ったこと」

私は今から40年前、英米文学コースで学び、クラブはESSでした。67歳になった今でも、母の強い勧めで大学で学び、本当によかったと感謝しています。

35年前、主人と結婚し、兵庫県加古川市に住み、2児の母となりました。2度目の出産直後からノイローゼになりました。同じマンションの人達は、私を気持ち悪がり、避けるようになり、私は孤立していきました。丁度その頃、イラン人の家族が同じマンションに引っ越してきました。子供達も同じ年齢です。私は彼女に英語で手紙を書き、お付き合いが始まりました。周りの人達は、その姿を見て「角谷さんは英語が話せるんだ」と、また交際をし始めてくれるようになりました。あの時は、心

から、「英語を学んでよかった」と思いました。

3年前から次女がカナダに住むことになり、2、3回ひとりでカナダに行きました。英語を学んでいたお陰で、現地の方達とも違和感なく交わることが出来ました。

今私は主人の両親が信仰していたプロテスタントの信者になり、英語で中高生達に聖書を教えています。英語のみことばに触れることにより、私自身もより深く聖書を理解し、教えることが出来ています。このご奉仕は、死ぬまで続けたいと願っています。ここまで来られたのも、神様のお導きと感謝しています。

角谷和子（旧姓：根元）(S49卒)

## 掲示板

INFORMATION

## ◇2018年度共立祭・総会・文芸サロン講座

今年度の総会・文芸サロン講座は、共立祭〈10月20日(土)・21日(日)〉期間中に行います。

日時:10月20日(土)

総会 11:00~12:00

文芸サロン講座 13:30~15:30

「モーツァルト最晩年(1791年)の小曲を聴く」

講師 武藤剛史氏(文芸学部教授)

場所:2号館607教室

出欠および昼食注文のお返事を同封の葉書で10月10日までにお知らせ下さい。

問い合わせ先:多田久恵 0424-21-9767

090-9140-3494

## ◇本館ホール展示と講演会

「宝塚展」9月21日(金)~10月6日(土)

講演会 「宝塚歌劇の現在」

講師 川崎賢子氏(立教大学特任教授)

特別ゲスト 水夏希氏

(元宝塚歌劇団雪組トップスター)

10月4日(木)18:00~19:30 本館B101教室

「文学座ポスター展」10月27日(土)~11月8日(木)

講演会 「戦後演劇と文学座」

講師 大笹吉雄氏(演劇評論家)

山本郁子氏(文学座)

11月1日(木)17:00~18:00 本館B101教室

## 「律女立つ」公演のお知らせ

前号掲載の「共立 spirit!」のインタビューを受けてくださった高田<sup>つやこ</sup><sup>おおもり</sup><sup>わこ</sup><sup>み</sup>さん(劇作家大森<sup>おおもり</sup><sup>わこ</sup>さん・劇団<sup>わぐみ</sup>旬組主宰)作、「律女立つ」が上演されます。

正岡律は、俳人・歌人正岡子規の妹で、子規を見送った後、共立で学び、人生を切り開きました。インタビューの中で高田さんは、「律は声高に女性の自立を叫んだ人ではありませんが、したたかに生き、人生をあきらめない心の強さは見習うべき価値あるものだと思う」と述べています。素晴らしい先輩がいることを若い後輩たちに伝えたいという思いで、この戯曲を書いたそうです。

律の生き方を描き、女性の自立を描く「律女立つ」は10月24日(水)~28日(日)、中野MOMOで上演されます。

公演は全9回です。

24日19:30、25・26日15:00/19:30、27日14:00/18:00、28日12:00/16:00 (27日夜公演後、アフタートーク)

料金:4000円 学割3000円(共立関係の方は割引になります)チケット問い合わせ先:制作 金坂吉雅氏

Mail <ykanesaka9800@gmail.com> Tel.090-2747-2141

## 編集後記

EDITOR'S NOTE

今夏の酷暑は日本だけではないとの報道に気象も情報も地球規模で変化すると改めて思います。その変化の中にあって過去を振り返り、それぞれの分野でご活躍のOGの今とこれからをお伝えします。皆様の明日への活力の一助となればと思います。(K)